

汚れた霞ヶ浦をどうする

大 槻 英 明

私たちは、昨年十月に霞ヶ浦の水質調査に行きました。汚れは全体にひどく、土浦入りと高浜入りは特にひどい状態でした。智恵子は、「東京の空は灰色」といい、現代の小供は「黒い川」の絵を書くといいますが、土浦入りと高浜入りでは、「10月の霞ヶ浦はま緑」でした。藍藻という植物プランクトンが大発生しているためです。悪臭のただよふ最悪の地点かと思える所に、浄水場の取水口がありました。あなたのお子さんは、土浦の子供たちは、どういう霞ヶ浦の絵を、何色の川を書くでしょうか？

さて、私たちの霞ヶ浦、昔はきれいだったとか、水泳ができたといいますが、なぜこんなに汚れたのでしょうか。今の霞ヶ浦は、人間でいえば、栄養分のとりすぎのための太りすぎ、それも 超肥満体となった病人といえるでしょう（富栄養湖という）そもそも、栄養分を十分と

ったら、運動も十分してエネルギーを消費しなければ、つり合いが取れないのに、何の規制もなしに、入ってくるものを全て飲みこんでいたのですから、太りすぎるのはあたりまえと言えます。この病気は、湖の寿命を急速に縮めています。湖に注ぐ数十の河川は、今日もどんどん栄養分を流し込んでいます。水質の悪化に伴ない、湖水の透明度は下がり、栄養分がたくさんあるため、動物プランクトンが大発生し、水生植物が繁茂し、それらの死がい、ヘドロとなってたまってきました。このままだと湖は泥化して死んでしまいます。

超肥満体で、先行きが心配されている霞ヶ浦は、大手術をして、たまっているものを取り除き、そして霞ヶ浦君の、消化可能な量を調べて、必要以上の食物を取らないように、強く監視するということをしなにかぎり、助ける手だてはないでしょう。

しかし、実際には、病人霞ヶ浦に、どういう治療がなされているのでしょうか。良い治療には、正しい診断。調査が必要ですが、それすら行なわれていないのですから何もされてはいません。それどころか、水ガメ化して、